

# 孝行娘介護で疲弊



無理心中に向かう3人を乗せた軽乗用車が利根川の河川敷に残したわだち10日、埼玉県深谷市

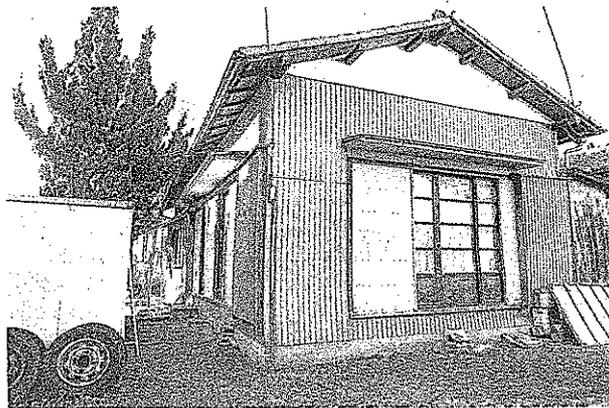
## 母は認知症、収入途絶え

認知症の母を約10年間介護し続けた娘は、病気で仕事を辞めた父に「死にたい」と言われ、両親を連れて川に体を沈めた。埼玉県内を流れる利根川で11月、高齢夫婦の遺体が見つかり、浅瀬から救助された三女が殺人と自殺ほう助の疑いで深谷警に逮捕された無理心中事件では、一家が生活苦や介護疲れで行き詰まっていた様子が浮かぶ。

## 父「死にたい」と懇願

利根川で、埼玉県深谷市のを取り留めた同居の三女波方藤田慶秀さん(74)と妻ヨキ子(81)の遺体が相次いで見つかったのは11月22日朝。一命を失った。病院に運ばれ、翌23日に逮捕

波方容疑者は調べに「生活が苦しく、介護にも疲れた」と説明。供述によると、藤田さんに「お母ちゃんだけ残し



亡くなった藤田慶秀さん夫妻と三女波方容疑者が住んでいた借家。4日、深谷市

てもかわいそうだから、3人で一緒に死のう」と懇願された。11月21日に両親を軽乗用車に乗せ利根川敷から川に入ったとみられ「水中で車が動かなくなったので、母の手を握り、3人で深い方へ歩いた」という。

「家でヨキさんが大声を上げることもあったが、本心に懸命に介護をしていた。不平、不満は聞いたことがない」。近所の70代男性は、波方容疑者が周囲も認める孝行娘だったと明かす。「罪は罪。償わなくてはならない」と話す一方で「残りの人生は大切に生きてほしい」と気遣った。

一家の自宅は平屋の借家。大家の女性によると、家賃は3万3千円で、20年以上前に入居した。ヨキさんが約10年前に認知症になり、症状が進んだのを受けて波方容疑者は仕事を辞め、介護に専念していた。家計は藤田さんが新聞配達と自給ほう助の罪で波方容疑者を起訴した。

さいたま地検は11日、殺人と自殺ほう助の罪で波方容疑者を起訴した。